

雷の多い年は稲が豊作

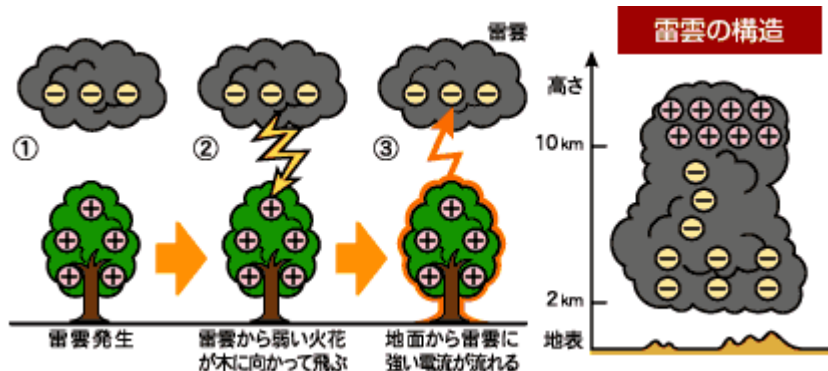
2013・5・31
NHK ラジオ

自然界には不思議なことがいっぱいあります。
昔から、雷が多い年は稲が豊作！と言われていますが そのとおりです。

雷は、空高く ピカッと光り その後 ゴロゴロと大きな音がします。



積乱雲



落雷が起こるしくみは次のようになります。
まず落雷を起こす雷雲の構造は、雲の上の方にプラスの電気が、
下の方にマイナスの電気がたまっています。

この雷雲のマイナスの電気に引き寄せられて、プラスの電気が地表にたまります。
すると、例えば木のような地表の突き出たところに電気が集中し、雷雲からその先端に向かって
最初の放電が起こります。

この小さな放電の跡が地表と雷雲を結ぶ電気の道となり、一気に放電が起こり雷となります。
雷がゴロゴロと鳴る理由は、電気の道となった空気とその熱のために急速に膨張し、
まわりの空気を激しく振動させるからです。

雷の多い年は稲が豊作

雷が発生すると、空気中に窒素肥料ができます。
それが地表に落ちてきて、畑の稲の肥料と
なって稲の成長を促進します。

雷の多い年は稲が豊作と言われる由縁です。

雷は稲妻ともいう

稲妻としたときは秋の季語となる。
稲妻の語源については、稲が開花し結実する夏から秋の
はじめにかけて、雨に伴い雷がよく発生するため、
稲穂は雷に感光することで実るといふ俗信が生まれ、
そこから雷を稲の夫、すなわち「いなづま」(「つま」は配偶者
の意。古くは夫・妻両様の意味を持っていた)と呼ぶようにな
ったといわれている。

神社、(注連縄) シメナワの(紙垂) シデは雷を現している

日本では、古来から稲の豊作を祝い、神社の注連縄にシデを垂れ下げました。
シデは雷の形をあらわしています。

雷が多く発生すると、空気中に発生した窒素肥料が畑にまかれることを知っていました。
人々は神社に参拝し、雷の発生→稲の豊作を願っていました。